

令和7年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰 受賞者一覧

【岩手県】（震災伝承部門）

受賞者名		
一般社団法人 おらが大槌夢広場 【所在地】 岩手県大槌町	「震災を学ぶ」ではなく、「震災から学ぶ」を掲げ、教育旅行受け入れや企業研修等を実施。被災時や復興時の正解のない課題を考え、決断するワークショップやリーダーシップ研修の評価は高く、リピーター率は7割を超える。 英語にて語り部やワークショップも実施しており、海外の大学や組織からのニーズも高い。	

【岩手県】

受賞者名		
特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク 【所在地】 岩手県遠野市	都市の人々が農村の人々と交流しながら余暇を楽しむグリーンツーリズムの実践に、100名ほどの地元住民とともに、20年以上携わる。 東日本大震災後方支援拠点地域の団体として、災害公営住宅の住民を対象にした交流の場づくりを実施。視察研修対応も行っており、後方支援のノウハウについて普及展開を行っている。	
受賞者名		
株式会社 醸 【所在地】 岩手県陸前高田市	震災前にしょうゆやみその醸造店が集積していた陸前高田市気仙町今泉地区において、発酵をテーマにした商業施設「陸前高田 発酵パーク CAMOCY（カモシー）」を運営するために地元7事業者で設立されたまちづくり会社。当該施設内では、発酵食品を用いた定食などを提供。 発酵文化を伝えるために、発酵を軸とした食の開発やイベントが行われている。	

【宮城県】（震災伝承部門）

受賞者名 社会福祉法人 南三陸町 社会福祉協議会 【所在地】 宮城県南三陸町	被災住民を生活支援の担い手とする取組を通じて培われた地域づくりのノウハウを活かし、いつでも誰でも立ち寄っておしゃべりを楽しめる「えんがわカフェ」、こどもから大人まで世代を超えて楽しむ「みんな食堂」などを開催。 企業研修や教育旅行にも対応し、10年以上かけて延べ100万回以上被災者への訪問を行った経験を伝えている。また、能登の関係者にも助言等を行っている。	
受賞者名 一般社団法人 女川町観光協会 【所在地】 宮城県女川町	「まち歩き案内」を通じて、女川町の復興まちづくりにおいて、多くの町民の参加のもとにデザインの検討の話し合いが進められ、海を遮る防潮堤を造らずに海への眺望軸を確保した経緯について伝えている。 また、来訪者と町民の関係性を築くことができるよう、企業研修や教育旅行では団体の要望に応じて町民と接する機会も提供している。	

【宮城県】

受賞者名 貴凜庁 株式会社 【所在地】 宮城県東松島市	東日本大震災で被災した旧野蒜小学校を利用して、防災をテーマとした体験型宿泊施設「KIBOTCHA (キボッチャ)」を民間の独立採算で運営。当該施設は、非常時には300人規模の一時避難所としても機能する。施設内のレストランや大浴場は、地元住民の憩いの場にもなっている。 また、能登半島地震の被災地域など、全国各地へのモデル横展開に向けた取組も行っている。	
--	--	---

【福島県】（震災伝承部門）

受賞者名	2013 年から次世代の成長の場づくりを500 回以上実施、1 万人以上が参加。この中から新しい福島を創る人材が生まれ、自分もそうなるとうとする憧れの連鎖により人材が輩出する。	
一般社団法人 あすびと福島 【所在地】 福島県南相馬市	社会人研修は 400 回以上実施、9,000 人以上が参加し、被災地の現実と人々と向き合い、志とリーダーシップを高めている。	

【福島県】

受賞者名	東日本大震災による避難で、一時人口がゼロになった福島県浜通り小高駅周辺や浪江町内で、日本酒の新ジャンル「クラフトサケ」の酒蔵を営む。	
株式会社 haccoba 【所在地】 福島県南相馬市・浪江町	2024 年にはまちのシンボルでもある JR 常磐線小高駅に日本初となる無人駅舎を活用した醸造所とパブリックマーケットを開業。	
受賞者名	世界中の多様な国の人と 1 か月に 1 か国ずつオンラインで出会い、リアルタイムに対話するダイバーシティ教育プログラムを提供。	
in the Rye 株式会社 【所在地】 福島県大熊町	当該プログラムは、2023 年に約 12 年ぶりに大熊町内に帰還した義務教育学校「大熊町立学び舎ゆめの森」で導入されている。2024 年度は、同校において、児童が 30 か国のゲストと交流し、異文化への理解を深める機会を提供。	
受賞者名	大学生が双葉郡内において 1 か月以上の住み込みで、復興支援等の活動に取り組むインターンをコーディネート。2017 年以降、延べ 100 社以上 200 名の実績を有する。インターン終了後も交流の機会をつくるなど、関係人口の創出にも寄与。	
特定非営利活動法人 コースター 【所在地】 福島県郡山市・富岡町	また、双葉郡で空き地を活用したマルシェイベントや郡山市で被災者と郡山市民が交流をするイベントも年複数回開催しており、町民、移住者、避難者が楽しみながら交流できる場を提供している。	